前原中心市街地まちづくりワークショップ

ウォーカブルな前原のまちを考えよう！

レポート vol.1

全4回プログラム

第1回
まちづくりを学び
エリアへの期待を
共有する
日時 10月18日（土）

第2回
まちを歩いて
前原の魅力を発掘する
日時 11月15日（土）

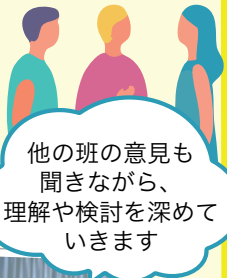
第3回
具体的な
アクションプランを
考える
日時 12月13日（土）

第4回
社会実験の内容と
チームビルディング
日時 1月17日（土）

第1回 まちづくりを学び、エリアへの期待を共有する

糸島市では、前原中心市街地の「居心地がよく、歩いて暮らせるまちづくり」を進めており、広場や駅前市道などのハード整備に加え、ソフト事業としてR8年度に社会実験を実施する予定です。それに先立ち、理想のまちの姿やどんな取組みが必要かなどを検討する連続ワークショップの第1回を開催しました。10月18日に開催された第1回には、地域住民、事業者、学生、専門家、行政など約40名が集まりました。

まちなかウォーカブル事業の概要を説明したのち、参加者はグループに分かれ、希望や不安を分かち合い、まちの将来を考える第1歩を踏み出しました。



グループワークの様子

❶事業や先行事例の説明

❷一人一人意見を出し合いました

❸グループで共有しました

❹発表して全体で共有しました

話し合いの結果

グループワークでは、前原中心市街地周辺の整備事業や、今後のまちづくりについての期待と不安を分かち合い、各班ごとに「期待の木」をつくりました。その一部をご紹介します。

賑わいと回遊性

- イベント(祭りなど)が多く、人が集まる（6）
- 文化的・美術的な個展等をまちのいくつかの拠点で開催（3）
- 人口密度低い(リフレッシュ、余裕ある、ちょうど良い)（2）
- 福岡市で体験できないことを体験できる場所（2）
- 糸島観光の拠点性を高める(宿泊地・レンタカー等の充実)（2）
- エリアをくまなく散策してもらう工夫。地点を散りばめさせてゲーム性を持たせる(スタンプラリー・フォトスポット)（2）
- 駐車場が少ない、料金が高い（3）
- 昼間閑散としている（3）
- 特定の場所に人が集中する（2）
- 筑肥線による南北の分断(回遊⇒改善)とキャパ（2）

歩きたくなるみちづくり

- 既存の公共施設に行きたくなる、滞在したくなるようにしたい(3)
- 土地勘がなく無目的でも、うろうろ楽しめる（2）
- 店などが増え、新しい発見が常にある（2）
- 市街地に向かう道路の整備をしてほしい(駅周辺)
- 歩行者・自転車利用者の安全性は確保できる？（2）
- 歩くポイントの分かる標識で、街全体を繋げる工夫が必要
- 段差をなくす⇒白杖の人はあぶない⇒インクルーシブ視点
- 歩道が斜め(ベビーカー・シルバーカー・車いすに対応)

住み続けたいまち、安心安全な暮らし

- 買い物、車が無くても暮らせる実感（2）
- シェアサイクルができる、自転車専用道路の整備（2）
- 暮らしや地域に密着した店舗、その食材を活用した飲食店（2）
- 駅周辺は市役所・銀行・郵便局もあり便利がいい
- 賑わいすぎると生活面に影響も(騒音・ゴミ・渋滞など)（3）
- 夜まち全体が暗い、夜道が暗い（2）
- 観光客だけでなく住民も安心して居心地よくすごせるか
- 施策を進めることで今の良さがなくなること

歴史・観光

- 商店街や唐津街道などの歴史文化は残したい（3）
- 観光協会がパワフルで丁寧
- 市役所から見える絶景(丸田池・笹山・可也山・夕日)
- 地元に長く暮らす語り部が潜んでいるはず
- 観光客が増えてきた(特に昼間)
- 商店や農家さんは高齢の方が多く、後継者不足が心配（2）
- 景観の統一感があまりない

若者・学生が輝くまち

- 若者・九大生が住みたい町に(遊びや活動の場・図書館・自習室・無料開放スペースなど)（6）
- 大学生や若者と連携できる環境がある（2）

新たな出会いが生まれる場や機会

- 人との出会い、地域の交流、創造性が生まれる（7）
- ソフト面の人材は非常に豊富
- 駅近場のまちの魅力を深堀りする会を開催したい
- 地域通貨で普段から交流の促進化(コミュニケーション)
- ワークショップを積極的にやられるところ
- ワークショップ出た事が実行に移されていない
- 「イベント⇒前原に定着」に繋がればGood！

緑空間・公園

- 丸田池公園が集客の核となるよう「イベントが行いやすい」設備を整えてほしい
- 街の緑化・木質化で、歩いて気持ちのいいまちに（3）
- 木製歩道(バリアフリー)を社会実験したい
- 休憩したりくつろげる空間がほしい(緑・ベンチ)（6）
- 中心街に大きな公園がない（3）
- 街路樹が少ない(九大学研都市学園通りは◎)

商業への期待

- 商店街の活性化(地元民と観光客)（8）
- 飲食店が充実している(お客さん同士の交流、迎え入れてくれる温かい姿勢)（5）
- 空き店舗をチャレンジショップ等に活用（4）
- 魅力的な小さなお店がたくさんある（2）
- 駅周辺が歩いて回れる施設であふれている
- (商業・賑わい)施設が少ない、知られていない（2）

公共交通・アクセス

- 福岡空港から直で1時間で到着(姪浜からのJRの景色も絶景あり、トンネルあり)（2）
- アクセスの良さを活かし交流人口を増やす、バス待ちも活用（2）
- 終電が早く、タクシーも少ないので遅くまで飲めない（3）
- 公共交通の不足、車がないと生活できない（2）

多世代の居場所づくり

- 老若男女すべての人が楽しめるまちづくり
- 子供の遊び場不足(夏・雨)（2）
- 20～30代が前原に出てきていない(自宅が糸島以外)（2）
- 前原駅の待合室が狭い

挑戦やビジネスを育む土壌づくり

- オフィス(働くスペース)不足　※建物3～4階の活用
- 働く人を増やす、働く場所を増やす
- 起業・チャレンジしづらい

■…期待、■…不安　※（）内は同一意見の数を示す

アンケートより

Q1. 本日の取組についての満足度【理由】

- 前原に魅力を感じている方となかなか出会うことがないので今日はそんな話もでき、他の例も学べてよかった。
- 多様な世代、立場の方と議論する中で、前原の現状や良さ、課題点を明らかにできた。
- 意見やアイデアの発散・共有のみで相手のもっと知るために質問とか議論の時間が欲しかった。

Q2. 話題提供やグループワーク等で印象に残ったことはなんですか。

- ウォーカブルというなじみのない単語だったけど、筑前前原には居心地の良い場づくりのポテンシャルがあると思った。
- 前原や糸島に持つイメージが様々で面白いなと感じました。同じまちの同じ事の話で「ある」も「ない」も出ること。
- 大学生がしっかりとした意見を持っていること。ゴールが少し分かりにくかった。

糸島市役所 建設都市部 都市計画課
☎ 092-332-2077（直通）　092-329-1311　toshikeikaku@city.itoshima.lg.jp